

A 岩手県コース

■匿名希望■

私の母親が宮城県の出身であり、昨年の東日本大震災後の 4 月に母親の出身の宮城県の沿岸部の被災地に行ってきました。

すると、辺り一面は何もかも無くなっており、目に写ったのは浸水している家の基礎の部分、あちこちにある花束、(地面に落ちている) 様々な日用品、コンクリートの道路ではない辺り一面の砂浜という悲惨な光景でした。

今回のツアーでは宮城県動揺甚大な被害を受けました岩手県の沿岸部でしたが、震災から 1 年半以上も経っていますので現地の方は大分復興しているものと期待して参加してみました。期待とは全く違うものでした。実際に現地に行ってみますと、昨年私が宮城県で見た光景にプラスされて、あちこちにある山積みのがれき、ボランティアの人を見かけなかったこと、すごい数の仮設住宅という驚きの光景でした。

この様な光景に加えて、現地の方々にお話を伺ったところ、復興は全く進んでいないということが分かりました。また、この様な全く復興が進んでいない現状は日に日に、被災地から離れた地域には伝わりにくくなっているように思われます。よって、今回の震災は段々と風化してきているようにも思いました。

以上のことから、①1 人 1 人が被災地の現状を正しく捉えて引き続き復興に向けて何ができるかを考え実行すること②在り来たりの事だとは思いますが、国政レベルの行政主体の復興支援を引き続き行っていくことが、今の被災地に必要だと思いました。